

TYPE OF INDUSTRY

日本のモノづくり基盤を支える製造業がインド市場の攻略に乗り出している。現地での自動車産業の発展に伴い、日本企業向けはもとより、現地企業向けにも関連製品の出荷増が見込める。相乗効果を見込みながら、先発企業の力を借りて保守・サービス拠点を設置するなど、現地市場攻略の足がかりにしている。

（南東京支局長・安久井建市）

◇ 金型用の油圧シリンダーを製造する南武（横浜市金沢区、野村伯英社長、045・791・6166）は、インドに生産拠点を構

南武、インド市場攻略へ

車部品 先発企業の力借り拠点

東京鑄造所に 保守業務委託 タイ増強、出荷拡大



インドでの保守サービスなどの業務委託契約で調印した南武の野村社長（手前左）と東京鑄造所の小沢社長（同右）

える東京鑄造所（群馬県高崎市、小沢淳社長、027・343・5168）と今年夏に業務委託契約を結んだ。インドでの補修部品の出荷や保守サービス体制を整えるのが狙い。今回の契約締結では、そのこと以上に「インドは日縮結では、そのこと以上に」

南武はインドで60社からの輸出で対応しているが、代理店だった日本の商社との契約が切れたため、戦略の見直しを迫られていた。今後は東京鑄造所がインド・ベンガルに構える生産拠点内に、金型用油圧シリンダーの補修部品を在庫

本ほどサプライチェーンが発達していない。信頼できる企業が進出できればいい」（小沢）

南武はインドで60社からの輸出で対応しているが、代理店だった日本の商社との契約が切れたため、戦略の見直しを迫られていた。今後は東京鑄造所がインド・ベンガルに構える生産拠点内に、金型用油圧シリンダーの補修部品を在庫

タイでは、助成金を利用した自動車購入の買い替え制限が切れたことと、国王死去に伴う喪が明けたことから、自動車の生産・販売台数が上向きつつあり、これに伴い、金型用油圧シリンダーの需要拡大も見込める。

タイ周辺のインドネシアやマレーシア、ベトナム、フィリピン向けも金型用油圧シリンダーの需要が旺盛。特にインド向けの輸出は加と相まって今後も増加が見込める。南武はタイ工場の増強により、インドも含めたアジア向けの出荷を増や

中小企業・地域経済

2500平方メートルの建屋にインド向けの輸出は約800平方メートル増加と相まって今後も増加が見込める。南武はタイ工場の増強により、インドも含めたアジア向けの出荷を増や